

柏市水道事業ビジョン の中間見直しについて

～主な変更（見直し）点～

柏市水道部総務課



本資料の構成

今回の見直し作業による、主要な変更点について説明

- ① 各章構成の変更 2～3
- ② 業務予定量の修正 4
- ③ 財政収支見通しの修正 5～6
- ④ 具体事業の見直し 7～14
- ⑤ その他 15

① 各章構成の変更

旧（見直し前）	新（見直し版）	変更点
1. 水道事業ビジョンの策定	1. 水道事業ビジョンの見直しにあたって	
2. 水道事業の概要	2. 水道事業の概要と現状評価	旧の2と3.を兼ねる
3. 水道事業の現状評価と課題		新2.へ集約
4. 水道事業の将来見通し	3. 水道事業の将来見通し	最新の実績を基に見直し
5. 水道事業の将来像	4. 水道事業の将来像	
6. 将来像実現のための施策	5. 中間評価及び後期計画の策定	5年間の進捗評価・見直し
	6. 経営戦略	新規追加
7. 施策実施に向けた推進体制	7. 施策実施に向けた推進体制	
資料1 業務予定量	資料1 業務予定量	最新の実績を基に見直し
資料2 ビジョン財政計画		新6.へ移動
資料3 アセットマネジメント検討結果	資料2 アセットマネジメント検討結果	最新の実績を基に見直し
用語説明	用語説明	

① 各章構成の変更

2. 水道事業の概要と現状評価

- H27～R1年度の実績に基づき前期計画期間の推移と現状を整理
- 業務指標（PI）を用いた現状評価を、直近のデータに基づき修正

3. 水道事業の将来見通し

- H27～R1年度の実績に基づき、事業環境の変化や将来予測を修正

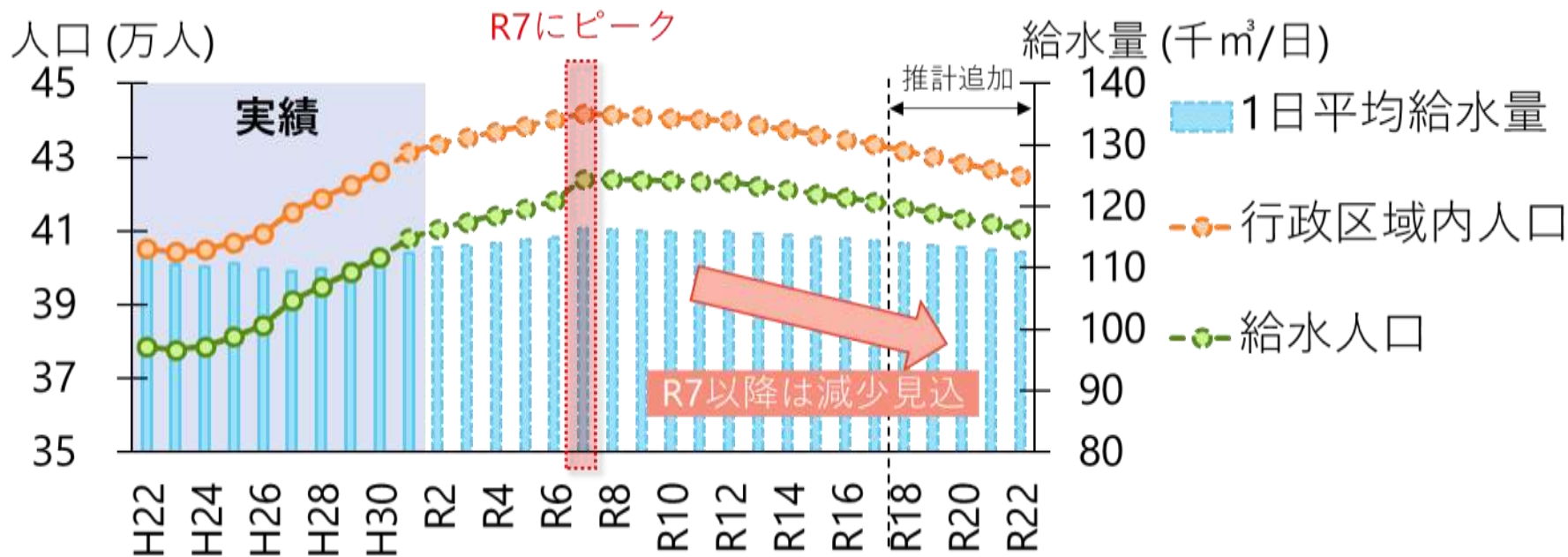
5. 中間評価及び後期計画の策定

- 前期5年間の進捗を整理し、後期5年間（令和7年度まで）に実施する具体事業の内容及び目標値を見直し

6. 経営戦略

- 経営戦略としての位置づけと方針をより明確にするために本章を追加

② 業務予定量の修正 (人口・水需要の将来見通し)



項目	実績値(R1)	見直し前予測値(R17)	見直し後予測値(R17)	見直し前後の増減
行政区域内人口 (人)	431,295	419,000	433,518	+14,518人
給水人口 (人)	408,024	394,000	417,909	+23,909人
1日平均給水量 (m³/日)	112,320	109,151	114,423	+5,272m³/日

- 実績5年間 (H27～R1) に基づき予測を修正
- 人口、水量ともにR7がピークとなり、その後は徐々に減少する見通し (見直し前と変わらず)
- 実績値が想定よりも増加傾向にあるため、見直し前と比較して、予測は全体的に上方修正

③ 財政収支見通しの修正 (収益的収支)



	見直し前	見直し後	見直し前後の増減
収支が赤字になる年度	令和55年度	令和40年度	-15年

- 令和3年度予算、事業の実績、最新の事業計画などを反映した
- 水需要は微増したものの、新たに人件費・物価の上昇や新庁舎の維持管理費を見込んだ結果、収支赤字が早まる予測結果となった

③ 財政収支見通しの修正（資本的収支・内部留保資金）



	見直し前	見直し後	見直し前後の増減
内部留保資金が不足する年度	令和42年度	令和50年度	+8年

- 令和3年度予算、事業の実績、最新の事業計画などを反映した
- 更新計画の見直しにより、事業費も減少したため、内部留保資金の不足は遅くなる見通しとなった

④ 具体事業の見直し

- 見直し結果の概要一覧については、本編 表5.3を参照
- 本資料では、取組方針や取組内容を大きく見直した事業として、以下の事業を取り上げる

2-01 管路の耐震化

6-02 地下水利用の適正化

5-01 危機管理体制の強化

7-03 トリハロメタン低減化対策

9-05 広域化への取組

10-01 効率的な組織体制の検討

10-02 技術継承と人材育成の促進

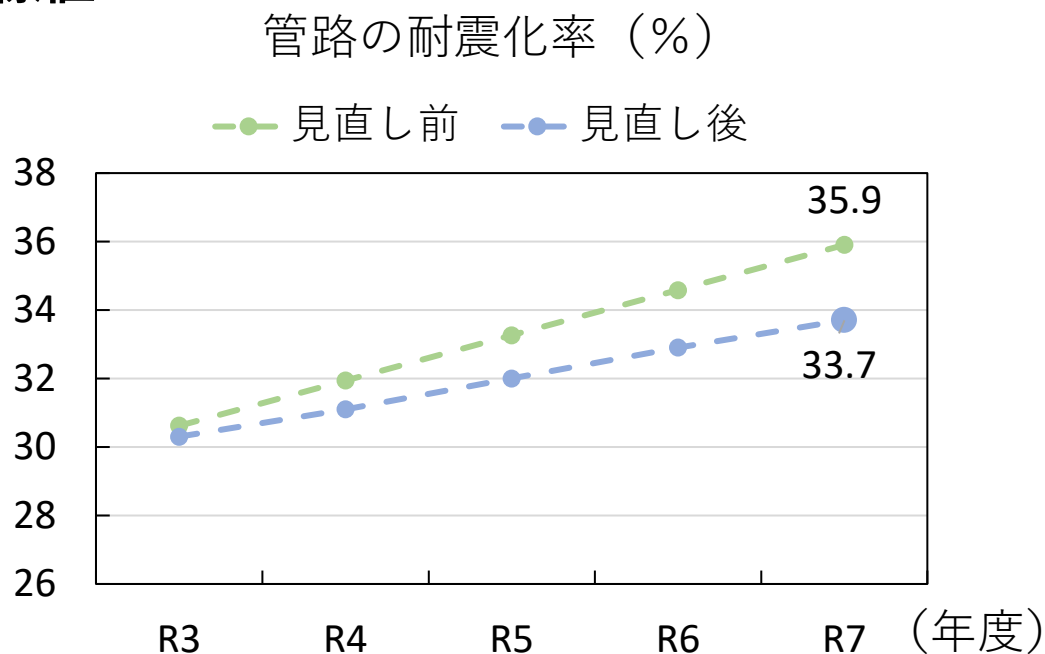
11-02 口座振替の促進

2-01 管路の耐震化

見直し理由

- 管路の耐震化の方針として、重要給水施設管路や基幹管路の優先順位を上げていくこととしたため、耐震化のスピードは下方修正した。

見直し前後の目標値

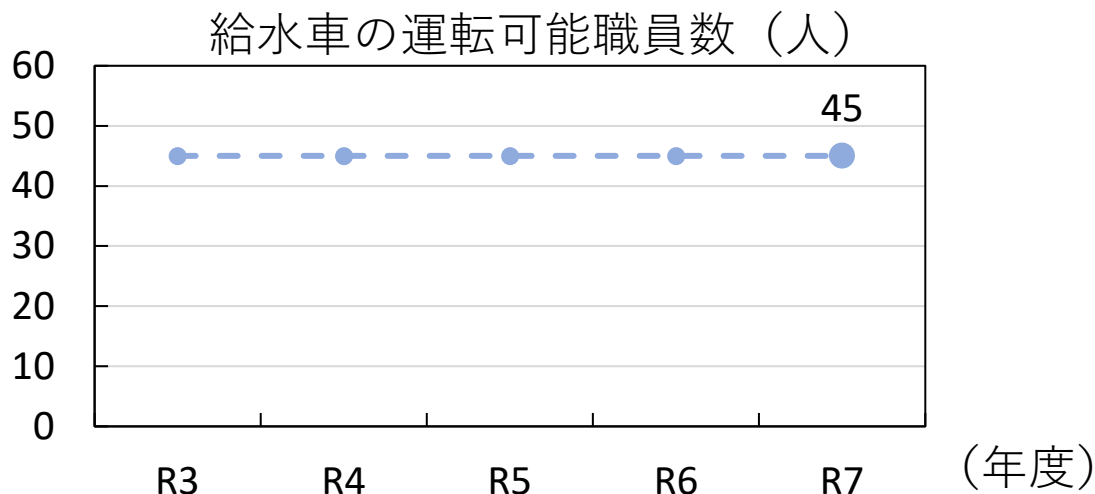


5-01 危機管理体制の強化

見直し理由

- 応急給水訓練の実施場所や頻度を見直す必要があった。
- 近年の風水害や感染症対策への対応を行う中で、迅速に対応するためのマニュアルの整備が十分でないことが判明した。
- 道路交通法改正による免許区分変更から、給水車の運転が可能な職員が減少していく見込みである。このため、給水車を運転できる職員の一定数確保に向けた取組を進めるため目標を新たに設定した。

目標値（新規追加指標）

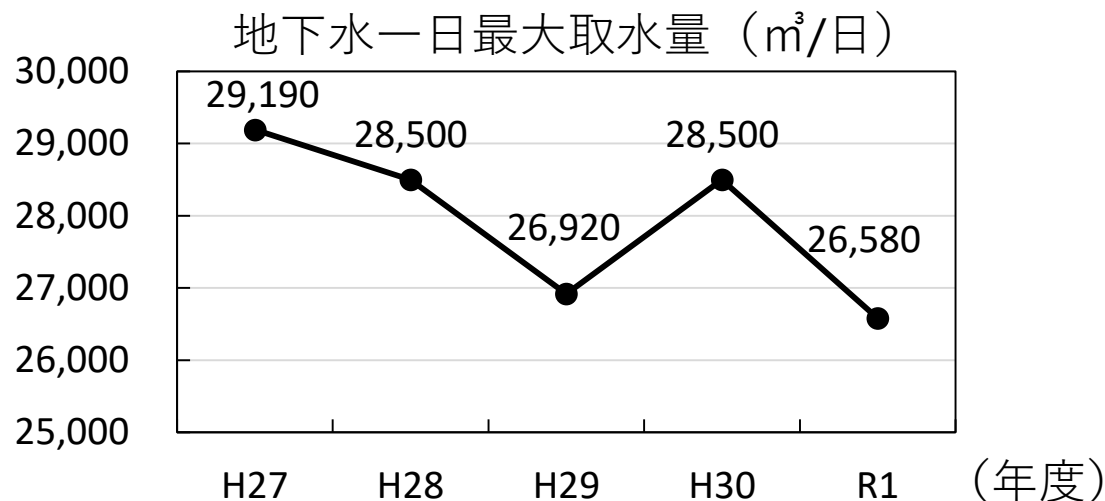


6-02 地下水利用の適正化

見直し理由

- 水需要の将来見通しと現在の水源能力から、当初予定していた第一水源地から第三水源地への井戸の掘り替えは当面見送る方針とした。
- 井戸の運用方針は、北千葉広域水道企業団からの受水を最大量受けた上で、不足分を井戸からの取水で補うものとする。しかし、井戸は常用水源であると同時に、渇水等の災害時における重要な水源であることから、今後も適正な維持管理を継続し、取水量の維持・確保に取り組む方針とする。

推移を把握するための参考実績値（新規追加）



7-03 トリハロメタン低減化対策

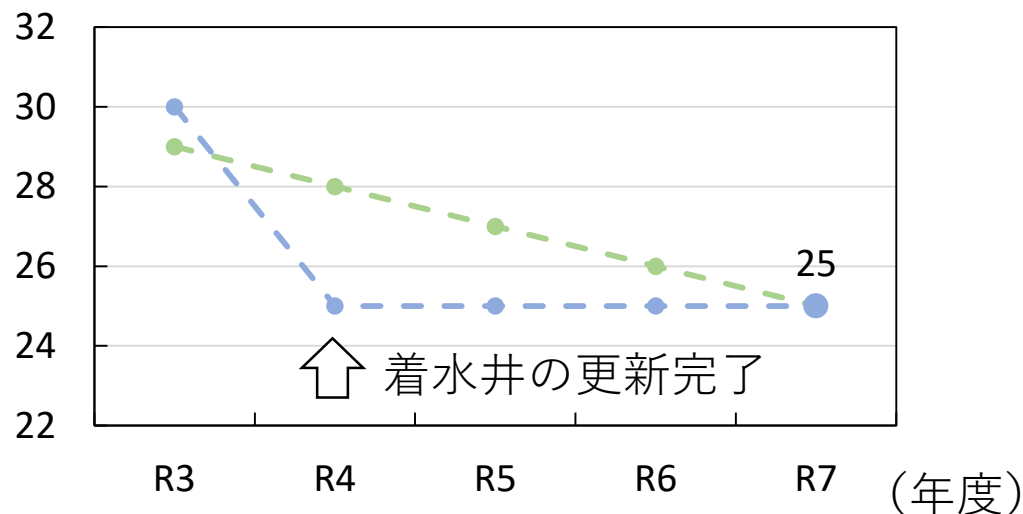
見直し理由

- 当初予定していた塩素注入率の管理によるトリハロメタンの低減は、検討の結果、効果が薄く実現が困難なことが明らかとなった。
- 後期計画では、着水井建替えによる構造の改良により、井戸水と塩素を混ぜりやすくし、トリハロメタン濃度の変動を抑制するとともに、井戸水と高度浄水処理された受水の割合を適正に管理（ブレンド対策）することで、トリハロメタン濃度の低減化を図る。

見直し前後の目標値

総トリハロメタン濃度水質基準比 (%)

●見直し前 ●見直し後



9-05 広域化への取組

水道法改正の影響

- 令和元年度から4年度にかけて千葉県による「水道広域化推進プラン」の策定作業が進められている。
- 柏市は、右図の左上の北千葉ブロックにおける検討会議に参画している。
- 今後は、この検討会議や県への情報提供・提言などを通じて、プランの策定に協力していくとともに、将来に向け柏市としての広域化に対する考え方の整理、多様な広域連携手法の研究・検討を進める。



千葉県における水道事業のブロック区分

10-01 効率的な組織体制の検討

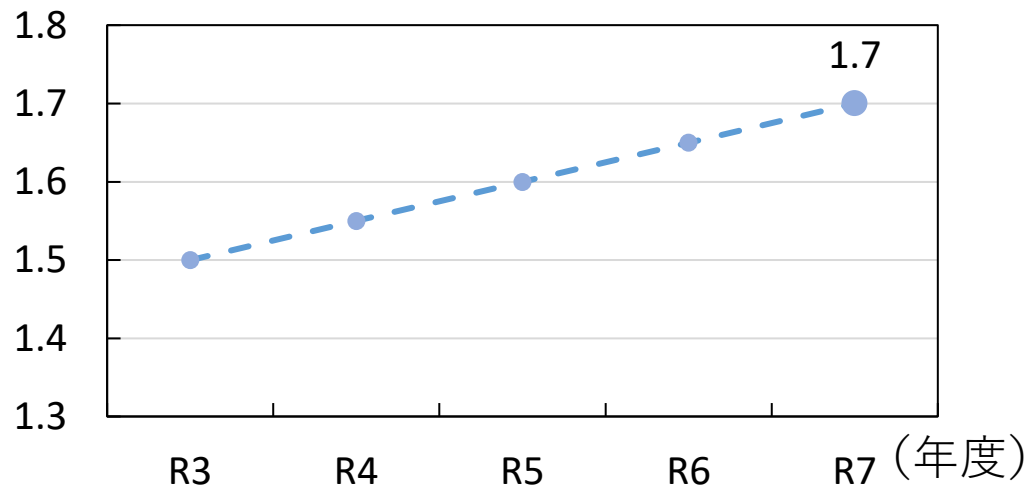
10-02 技術継承と人材育成の促進

見直し理由

- 下水道部門との組織統合を通じて、水道事業と下水道事業の業務の連携や集約などを進め、効率的な組織体制の構築・人材育成を図る。
- 水道事業単独での専従職員の採用は制度としての導入が見込めないこと、定期的に人事異動があり経験豊富な職員の確保・計画的な人材育成などが難しいことから、組織統合のメリットである事務系業務の集約、OJTを含めた内部研修・外部研修の充実・強化を通じ、技術継承・人材育成につなげていく。

目標値（新規追加指標）

一人当たり研修受講回数（回/人）



11-02 口座振替の促進

見直し理由

- コンビニでの水道料金の取り扱いを開始してから、コンビニ支払いの利用者割合は増加しており、口座振替利用率は低下を続けている。
このため、令和3年度中に口座振替の申し込みをweb上で行えるシステムを導入し、利用者の利便性の向上と料金徴収業務の効率化を図る方針とした。

見直し前後の目標値

